

野外教育研究施設の運営と大学演習林

— ラ・セルバ生物学ステーション視察報告 —

神崎康一・竹内典之・高柳 敦・長谷川尚史
牧瀬明弘・境慎二郎・藤井弘明・石井弘明

1. はじめに

大学演習林は、従来、林学科附属として設置されており、林学科のカリキュラムを実施するためのフィールドとして設定され、維持・運営されてきた。ところが、近年、環境問題が世界共通の緊急課題として強く認識されるに至り、とくに森林については、その「保存と持続的な管理運営」ということが、世界共通の課題として取り上げられ、研究・教育両面から、その推進が強く要求されている。このような環境問題の緊急化を動機として、生態・生理学分野はもとより、分子生物学から、社会経済学や美学の範囲にいたる広い分野の研究者が森林を対象とした研究課題を持つに至っている。大学演習林は従来の気象観測などの基礎的なデータの蓄積と森林の維持状態から、これらの研究や広く人々に環境教育を行うフィールドとしてきわめて適切な施設である。したがって、京都大学演習林も、研究職員自身の研究をなお一層強く推進させるとともに、従来の殻を捨てて、完全なオープン利用体制に発展的に改変し、あらゆる分野からの研究者を導入し、上記の世界的な強い要請に応え、世界の持続的な繁栄に寄与すべき使命を果たさなければならない。

以上の要請に基づいて、京都大学演習林では、職員自身の手で、様々な分野からの研究と教育についての要求にもっとも効果的に対応できる研究および管理機構と施設の整備を行うべく、海外において現在最も優れている野外研究教育用のフィールド・ステーションの幾つかについても研究を進めてきた。その結果、現地視察の必要性が強く要請されたことと、職員自身の意識を高めて改革の意義をより良く理解するために、この度、そのうちの一つであるコスタリカにあるラ・セルバ生物学ステーション (La Selva Biological Station) のシステムについて実地視察を行った。本報告では、その視察内容について報告し、フィールドステーションとして組織と運営のあり方について、演習林との比較検討を試みる。

2. 熱帯研究機構 (O T S)

ラ・セルバ生物学ステーションは熱帯研究機構 (O T S : Organization for Tropical Studies) の一機関である。その設立から現在の運営に至るまで、その存在抜きに考えることはできない。その

Koichi KANZAKI, Michiyuki TAKEUCHI, Atsushi TAKAYANAGI, Hisashi HASEGAWA, Akihiro MAKISE
Sinjiro SAKAI, Hiroaki FUJII, Hiroaki ISHII
Research Management and Environmental Education in University Forest
- Hints from La Selva Biological Station in Costa Rica -